

令和3年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<p><b>1 一人一人の児童生徒の尊重</b></p> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p>	<p><b>2 友達への思いやり</b></p> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<p><b>3 道徳・心の教育の充実</b></p> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p>
<p>【学校から】【1 一人一人の児童生徒の尊重】「4」「3」の評価が、保護者・児童・教職員とも9割を超えており、昨年度よりかなりの伸びが見られる。新型コロナウイルス感染拡大防止のために教育活動にも制限が多々あったが、日頃から担任がICT機器等の活用を工夫した指導や支援や個別相談の充実に取り組み、一人一人に向き合ってきた成果だといえる。しかし保護者・児童の中には「1」の割合も1%以上いることから、今後も継続してよりきめ細やかな配慮に心がけていくことが必要である。【2 友達への思いやり】昨年と比べて特に児童の「4」「3」の割合が15パーセント伸びている。【3 道徳・心の教育の充実】保護者は昨年の評価と変わらないが、教職員は13.9%の伸びが見られた。道徳・心の教育の大切さを意識し日頃から取り組んでいる結果であるが、その取り組みや子どもたちの学びの様子を保護者へ伝えていく更なる努力が今後必要である。</p>		

②確かな学力を育む教育の推進

<p><b>4 意欲的な学習態度</b></p> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<p><b>5 授業力向上</b></p> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<p><b>6 タブレット活用</b></p> <p>子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。</p>
<p>【学校から】【4 意欲的な学習態度】保護者・児童・教職員ともに「4」「3」の割合が昨年度より上昇している。【5 授業力向上】保護者・児童・教職員ともに「4」「3」の割合が9割を超えているが、保護者の2.9%が「そう思わない」と答えていることから、全ての児童が「授業がわかる・楽しい」と言えるような授業ができる力と技術を磨いていく必要がある。【6 ICT活用】保護者・教職員については昨年度とあまり変化は見られないが、教職員は「4」の割合が30.7%上昇した。本年度は校内研修でICTの効果的活用についてをテーマに設定し、計画を立てて実践につながる研修を重ねてきた成果が大きく出ているといえる。今後はその成果を児童の学習に生かし、その様子を積極的に保護者に啓発していきたい。</p>		

③健やかな体を育む教育の推進

<p><b>7 健康づくり</b></p> <p>子どもは、好き嫌いや食事をして適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>	<p><b>①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実</b></p> <p><b>8 児童生徒理解</b></p> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていると思いますか。</p>
<p>【学校から】【7健康づくり】保護者、児童共に「4」「3」の割合が9割を超えており、昨年度よりよい結果である。しかし、教職員の割合は昨年同様6割である。食に関しては、食べ物の好き嫌いや偏食の傾向が強い児童もおり、学級によっては残食の量が減らないところもある。ゲームやネット視聴により睡眠時間が削られる児童もおり、今後更に家庭と連携して望ましい基本的生活習慣の育成に取り組んでいく必要がある。</p> <p>【学校から】【8児童生徒理解】児童・教職員の「4」「3」の割合が9割を超え、昨年度より10%以上の上昇であるが、保護者については昨年と大きな変化は見られない。このことから、学校での児童と教職員との関わりや交流の様子を保護者に積極的に発信していく必要がある。</p>	

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

<p><b>9 いじめや問題への対応</b></p> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>

②特別支援教育の推進

<p><b>10 学校の支援体制</b></p> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>	<p><b>11 共生社会を担う人材の育成</b></p> <p>「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。</p>

【学校から】【9 いじめや問題への対応】「4」「3」の割合は保護者は昨年と変わらないが児童は10.7%上昇した。これは月ごとの「きずなアンケート」や今年度からはじめた子どもと「向き合う日」を設定し「きずなアンケート」を受けて個別の面談を行ったことで、子どもの思いに寄り添った指導につながった成果であるといえる。【10 学校の支援体制】保護者はほぼ昨年同様であるが、教職員は「3」「4」の割合が90%を超えている。特別支援コーディネーターを中心とした個に応じた支援体制の構築に全職員で取り組んできた結果が、職員の意識につながったと考える。

①子どもたちの身近な安全対策の充実

<p><b>12 安全と事故防止</b></p> <p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>

②最適な学習環境の整備

<p><b>13 施設・設備の安全管理</b></p> <p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p>

【学校から】【12 安全と事故防止】昨年度よりも「4」「3」の割合が、保護者が6.3%、児童が8.7%、教職員が33.1%上がっている。今後も継続して全職員の意識を保ち、衛生管理、安全指導、日常のケガ、事故防止等安全管理の徹底に努めていかねばならない。

【学校から】【13 施設・設備の管理】昨年度よりも「4」「3」の割合が保護者、児童、教職員共に80%を超えている。今年度古くなった道具・施設等の修理、撤去を積極的に進めてきた成果である。今後も毎月の安全点検と安全安心な学校環境の整備に取り組んでいく。

### ③家庭・地域社会との連携強化

<b>14 教育方針・目標の理解</b>	<b>15 家庭や地域との連携協力</b>																																								
学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。																																								
<table border="1"> <caption>14 教育方針・目標の理解</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>「4」</th> <th>「3」</th> <th>「2」</th> <th>「1」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>20%</td> <td>70%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>15%</td> <td>75%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>15%</td> <td>75%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	「4」	「3」	「2」	「1」	保護者	20%	70%	10%	0%	児童	15%	75%	10%	0%	教職員	15%	75%	10%	0%	<table border="1"> <caption>15 家庭や地域との連携協力</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>「4」</th> <th>「3」</th> <th>「2」</th> <th>「1」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>15%</td> <td>70%</td> <td>15%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>10%</td> <td>75%</td> <td>15%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>10%</td> <td>75%</td> <td>15%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	「4」	「3」	「2」	「1」	保護者	15%	70%	15%	0%	児童	10%	75%	15%	0%	教職員	10%	75%	15%	0%
対象	「4」	「3」	「2」	「1」																																					
保護者	20%	70%	10%	0%																																					
児童	15%	75%	10%	0%																																					
教職員	15%	75%	10%	0%																																					
対象	「4」	「3」	「2」	「1」																																					
保護者	15%	70%	15%	0%																																					
児童	10%	75%	15%	0%																																					
教職員	10%	75%	15%	0%																																					
【学校から】【14 教育方針・目標の理解】保護者・児童・教職員共に昨年度よりアップしている。コロナ禍で集会開催が困難な中、ICTを活用して教育方針や目標を児童に周知してきた成果である。しかし不十分だと考える2.3%の保護者もいるため、更に示し方を工夫していく必要がある。【15 家庭や地域との連携協力】「4」「3」の割合が教職員で11.4%上がっているにも関わらず、保護者で7.7%低下している。学校としては「たくにし応援団」を立ち上げ、活動の様子を掲示板やホームページ等で紹介している。コロナ禍で地域と連携した活動が制限されていることが起因している。更に、地域・保護者への周知を工夫していく必要がある。																																									

### ④本校の教育

<b>16 あいさつ</b>	<b>17 自他の尊重</b>	<b>18 自他の尊重</b>																																																												
子どもは、あいさつをすすんで行っていると思いますか。	子どもは、じぶんをたいせつにしていると思いますか。	子どもは、お友だちをたいせつにしていると思いますか。																																																												
<table border="1"> <caption>16 あいさつ</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>「4」</th> <th>「3」</th> <th>「2」</th> <th>「1」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>15%</td> <td>75%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>10%</td> <td>80%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>10%</td> <td>75%</td> <td>15%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	「4」	「3」	「2」	「1」	保護者	15%	75%	10%	0%	児童	10%	80%	10%	0%	教職員	10%	75%	15%	0%	<table border="1"> <caption>17 自他の尊重</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>「4」</th> <th>「3」</th> <th>「2」</th> <th>「1」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>10%</td> <td>75%</td> <td>15%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>10%</td> <td>80%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>10%</td> <td>75%</td> <td>15%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	「4」	「3」	「2」	「1」	保護者	10%	75%	15%	0%	児童	10%	80%	10%	0%	教職員	10%	75%	15%	0%	<table border="1"> <caption>18 自他の尊重</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>「4」</th> <th>「3」</th> <th>「2」</th> <th>「1」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>10%</td> <td>75%</td> <td>15%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>10%</td> <td>80%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>10%</td> <td>75%</td> <td>15%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	「4」	「3」	「2」	「1」	保護者	10%	75%	15%	0%	児童	10%	80%	10%	0%	教職員	10%	75%	15%	0%
対象	「4」	「3」	「2」	「1」																																																										
保護者	15%	75%	10%	0%																																																										
児童	10%	80%	10%	0%																																																										
教職員	10%	75%	15%	0%																																																										
対象	「4」	「3」	「2」	「1」																																																										
保護者	10%	75%	15%	0%																																																										
児童	10%	80%	10%	0%																																																										
教職員	10%	75%	15%	0%																																																										
対象	「4」	「3」	「2」	「1」																																																										
保護者	10%	75%	15%	0%																																																										
児童	10%	80%	10%	0%																																																										
教職員	10%	75%	15%	0%																																																										
【学校から】【16 あいさつ】昨年度と比べて児童は13.8%、保護者は1.9%上昇したが、教職員は10.3%低下した。教職員から見た学校での児童のあいさつの状況や課題を児童や保護者と共有し、更なる意識付けを行っていく必要がある。【17 18 自他の尊重】17の自分を大切にしている項目については、「4」「3」の割合が保護者96.5%、児童89%、教職員78.3%でかなりの差が見られる。自分を大切にするということの捉え方の共通理解を図り、家庭と連携して自尊心を高める教育に取り組んでいく必要がある。18のお友だちを大切にすることについては、保護者、児童、教職員ともに「4」「3」の割合が9割を超えており、友だちとの関係を良好に保っていこうとする意識は定着していると考えられる。																																																														

### 来年度の具体的な取り組みについて

- 「豊かな心をはぐくむ教育の推進」においては、学校で取り組んでいるICT機器の効果的活用を道徳科授業にも生かしてを進めていく。学校で道徳科での学びを身近な生活場面で生かせるような、生きて働く道徳性の向上に取り組みたい。個々の児童にしっかりと目を向け、子どもと向き合い、個に応じた適切な指導や支援に、全職員で丸となって取り組んでいく意識を高めていく。
- 「確かな学力を育む教育の推進」では、今年度校内研修で取り組んだICT機器の効果的活用例を具体的実践につなげていく。熊本市学力調査の結果を振り返り、ICT機器を活用した基礎基本の徹底した定着を図り、落ち込んでいる領域の指導の充実を図る。更に「学びとる学校教育」の実現を目指し、これまでの授業から子どもが自ら進める授業への変革を図ることで、学び続ける子どもの育成を目指したい。
- 「健やかな体を育む教育の推進」については、コロナ禍で様々な活動が制限される中、感染対策を続けながら体力と運動技術の向上を目指した授業や体育活動の改善・工夫に取り組んでいきたい。
- 「いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実」について、月ごとの実施するいじめアンケートと「向き合う日」をリンクさせる取組を次年度も継続し、個々の児童の不安や悩みを寄り添い、個に応じた適切な支援がきれめなく施されるように特別支援コーディネーターを中心に体制づくりを目指す。
- 特別支援教育の推進は、障害種別により専門的な教育が計画的かつ効果的に実施できるような支援を継続していく。
- 子どもたちの身近な安全対策については、より実践的な避難訓練や保護者や地域と連携して下校指導を行い、自助と共助の心を育み、予測困難な不測の事態にも対応できる力を培うことを目指したい。
- 「家庭や地域との連携協力」においては、学校の教育方針や教育目標を、学校日より、HP等を活用し、分かりやすく発信し丁寧に説明を行っていく。更にたくにし応援団を中心とした託麻西小教育エコシステムを更に充実させていく。

### 学校関係者評価

- 保護者の方にも、学校への相談がし辛いという声があるということをご指摘いただいた。今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、年間計画で予定していた授業参観が実施できなかったこともあり、保護者が学校での子どもの様子を一度も参観できていない。そのことが保護者にとっての不安材料となっている部分が多い。次年度は、各担任と保護者との連携をより深め、保護者がいつでも相談しやすくするための具体策を検討する必要がある。
- 豊かな心をはぐくむ教育を今後もより進めていくべきであるというご意見をいただいた。学校での道徳科授業で学んだことを、実生活の中で生かしていけるように更に工夫が必要である。実施できなかった道徳授業参観についても次年度検討したい。
- コロナ禍で地域との連携も難しい状況であったが、登下校の見守りの時に子どもたちはよく挨拶を交わすことができているとのことであった。次年度は、「たくにし応援団」の活動を更に工夫し、広げていくことで、地域との連携をより深めていきたい。